



いよいよ今週末は、第63回弥生祭がはじまります。初日に「クラパフェ」というクラスごとにパフォーマンス発表をするプログラムがあります。「クラパフェ」はいつ頃から始まったものか同窓会誌「百年の歩み」から調べてみました。

クラパフェ（クラスパフォーマンスフェスティバル）は、前夜祭において平成18年から始まったという記述がありました。今年で17年目ということになります。

その同窓会誌「百年の歩み」には、「回顧」という題名（p236）で、過去に本校生徒会顧問であった内堀繁利先生（現長野県教育長）の文章があり目に留まりました。

弥生の生徒手帳には『缶の自動販売機設置にあたって』と『宣言文』という他校ではあまり例のない文章が収められている（※）。日付は1995年4月25日。この年の生徒総会が行われた日である。

『缶の自動販売機設置にあたって』は、「我々弥生ヶ丘高校生徒会は、1年半にも及ぶ粘り強い取り組みの結果、ついに缶の自動販売機を校内に設置することになった」で始まる格調高い文章だ。長期間にわたる生徒・職員の話し合いなど校内に自動販売機が設置されるに至った経緯や、生徒が一致して宣言文の内容を述べることなどに言及している。そして、最後に、万が一宣言文の内容が実施できずに自動販売機が撤去されるような事態になった場合に触れ、そのときは「本校生徒会の自主自律の精神が失われることであり、極めて嘆かわしいことである。このようなことがないように、我々はこれからも努力を怠ることなく、自動販売機とそれに伴う健康や環境の問題に対して、理解を一層深めていく決意を表記しておく」と結んでいる。

『宣言文』では、まず、生徒会活動は自分たちが生活をしている学校という場所の環境を自分たちの手で向上させるために行う活動である、と生徒会活動の目的に触れ、健康管理を自分たちで行うこと、空き缶の処理を決められた方法で行うこと、毎年春に生徒総会・各委員会・各クラブ等で自動販売機設置に至る経緯とその精神を確認し後輩に伝えること、新たに自動販売機委員会を設置することなどを謳っている。（※ 生徒手帳のp54～59）

内堀先生はこうも書いています。「この頃弥生の生徒会は、県内の高校でも最も注目されている生徒会であったと言っても過言ではない。当時の弥生にはこういう高校生たちが確かに存在したのである。現在でも**先輩たちの精神**は弥生に息づいているだろうか。」

「……中でも弥生祭の充実ぶりは目を見張るものがあった。学年修学旅行展、実物大「ゲルニカ」、・・・「手づくり」へのこだわり、詳細な台本の作成と徹底したリハーサル、各賞の設定と一枚ごとの内容の異なる感動的な表彰状、・・・などなど。」

「生徒会の新役員の仕事は前年度の活動を収めた全てのビデオと文書に目を通すことから始まる。そして、前年度の成果と課題を踏まえた上で、毎年違う形で前年度の弥生祭や生徒会活動を超えようとしてきた。このような取り組みが弥生の生徒会を県内はもちろん全国的にも知られる場所へと押し上げた。当時、文化祭の内容の豊かさや充実ぶりを維持しながら、『自分たちの生活環境をよりよいものにする』というもう一つ上の段階に弥生の生徒会活動が到達していたからこそ、全校生徒が一丸となって自動販売機の導入に取り組むことができたのである。」

先輩たちの精神に学び、こだわりを持った取り組みをとことんやってほしい。